

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成 27 年3月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 広島県でみられるマダニ等による感染症に注意しましょう！！

マダニが媒介する感染症には、平成 25 年2月に県内で初となる患者が確認された「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」や「日本紅斑熱」などがあります。また、ダニの仲間であるツツガムシが媒介する「つつが虫病」などがあります。潜伏期間や症状の特徴などについては次表のとおりです。

疾病名	潜伏期間	症 状		発生状況	
		初期症状	特 徴	H25 年	H26 年
日本紅斑熱	2～8 日	かぜ様: 倦怠感, 寒 気, 発 熱	発 疹: 発熱の後にやや遅れて, 四肢や体幹部に米粒大や小豆大の紅斑 (痛み・かゆみはないが手のひらにも出現) 刺し口: 腹部や背部, 外陰部, 大腿部など隠れた部分にある場合が多い (「かさぶた」を形成するが, つつが虫の刺し口ほど大きくない)	27	30
つつが虫病	10～14 日	(38～40℃ /急激に発 熱)	発 疹: 発熱後, 顔面や体幹部に米粒大の紅斑(痛み・かゆみはない) 刺し口: 臀部, 外陰部, 大腿部や腹部など, 皮膚の柔らかい隠れた部分に ある場合が多い(特徴的な「かさぶた」を形成)	15	10
重症熱性血 小板減少症 候群(SFTS)	6～14 日		消化器症状: 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 腹痛, 下痢, 下血 その他の症状: 頭痛, 筋肉痛, 神経症状(意識障害, けいれん, こん睡), リンパ節, 呼吸器症状(咳など), 出血症状(紫斑)	5*	3

※ 感染症法で届出義務となった平成 25 年 3 月4日以前の1例(平成 25 年 2 月 19 日発表)を含む。

◎ これらの疾病は、臨床症状がよく似ているので、診断には抗体検査や遺伝子検査が必要です。

☆ つつが虫病: 民間の検査機関で対応が可能です。

☆ 日本紅斑熱・SFTS: 各保健所(広島市は各保健センター)を通じて検査を行っています。

◎ SFTSウイルスや日本紅斑熱リケッチアなどを保有しているマダニは限られていると考えられていますが、これから暖くなる春から秋にかけてマダニ等の活動が活発になるので、これらの感染症を予防するためにはマダニ等に咬まれないようにすることが重要です。

マダニ等が媒介する感染症に関する詳しい情報は、こちらのホームページを御覧ください。

○マダニの感染症「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」に注意しましょう！！(ひろしま CDC)

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/sfts-yobou.html>

(2) 感染症・疾病対策における保健環境センター保健研究部の役割

県保健環境センターでは、健康危機管理を業務の主なる柱として、総務企画部、保健研究部及び環境研究部の3部で構成されています。このうち保健研究部は、平成 25 年4月の広島県感染症・疾病感染管理センター(ひろしまCDC)の発足に伴い、ひろしまCDCとの兼務体制を敷くことにより、これまで以上に行政との連携を図る中で感染症・疾病対策に取り組むことになりました。

ひろしまCDCにおける保健研究部の主な業務としては、次のものが挙げられます。

① 感染症サーベイランスにおける病原体の検査

・県内流行ウイルス等の病原体の早期把握、関係機関へデータ情報還元

② 感染症予防等の対策に関する調査研究

・「食中毒、感染症起因細菌の分子疫学的解析法の検討」
・「ダニ媒介感染症の実態解明に関する研究」などの課題に取り組んでいます。

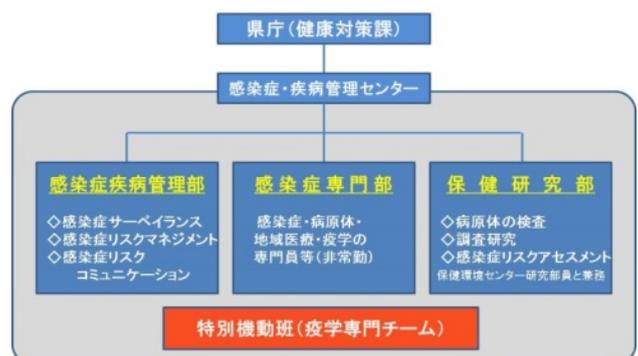
③ 各種感染症事案への検査対応

・集団発生が危惧される「ノロウイルスの感染性胃腸炎事案」
・グローバル化に伴う「今後の増加が予想される輸入感染症への対応」

例えば、デング熱やウエストナイル熱、あるいは中東呼吸器症候群(MERS)などの患者が県内で発生した場合でも、即応できるよう検査体制を整備しています。

④ 感染症リスクアセスメント・・・専門的な見地から「技術的助言や情報提供」を行っています。

広島県感染症・疾病管理センターの体制



2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成27年2月分(平成27年2月2日～平成27年3月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	6,302	13.82	17.34	↓	11	ヘルパンギーナ	5	0.02	0.02	
2	RSウイルス感染症	104	0.37	0.65	↘	12	流行性耳下腺炎	119	0.42	0.63	↘
3	咽頭結膜熱	107	0.38	0.56	→	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.03	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	789	2.78	1.83	↗	14	流行性角結膜炎	28	0.37	0.61	↘
5	感染性胃腸炎	2,556	9.00	10.13	→	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	149	0.52	1.15	↘	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.02	
7	手足口病	72	0.25	0.31	↘	17	マイコプラズマ肺炎	18	0.21	0.17	↑
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.11		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	114	0.40	0.44	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	—	
10	百日咳	3	0.01	0.06							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成27年2月分(2月1日～2月28日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	43	1.87	2.03	↗	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	88	4.19	4.90	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.76	↘	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	0.29	1.00	
22	尖圭コンジローマ	20	0.87	0.78	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.07	
23	淋菌感染症	23	1.00	0.95	→						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

●急増疾患 マイコプラズマ肺炎(0.07 → 0.21)

●急減疾患 インフルエンザ(36.01 → 13.82)

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患,月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	23	結核(23)〔西部東保健所(3),西部東保健所(5),東部保健所(1),広島市保健所(5),福山市保健所(6),呉市保健所(3)〕
三類	1	腸チフス(1)〔呉市保健所〕
四類	6	A型肝炎(4)〔北部保健所(1),広島市保健所(3)〕,レジオネラ症(2)〔広島市保健所〕
五類全数	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔西部保健所(2),広島市保健所(2)〕,クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所〕,侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔東部保健所〕,梅毒(3)〔広島市保健所(2),福山市保健所(1)〕